

環境経営レポート



期間: 2023年8月1日～2024年7月31日

作成日 2024年10月10日

株式会社 沼田機業

【1】事業活動の概要

1、事業所名及び代表者名

株式会社 沼田機業

代表取締役 沼田 直

2、所在地及び対象範囲

本社 : 〒311-3411 茨城県小美玉市野田183番地

処理場 : 木くず中間処理場 〒311-3412 茨城県小美玉市川戸字葉柄峯1143番3 他3筆

野菜くず堆肥化施設 〒311-3412 茨城県小美玉市川戸字葉柄峯1143番2の一部

有価木くず破碎施設 〒311-3412 茨城県小美玉市川戸字葉柄峯1143番10 他7筆

3、環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者 土木部長 小貫修平

連絡先 TEL:0299-58-1715 FAX:0299-58-4412

4、事業の概要

法人設立 : 平成8年8月8日

資本金 : 2,350万円

年間売上高 : 1,981百万円(2023年度:2023年8月～2024年7月)

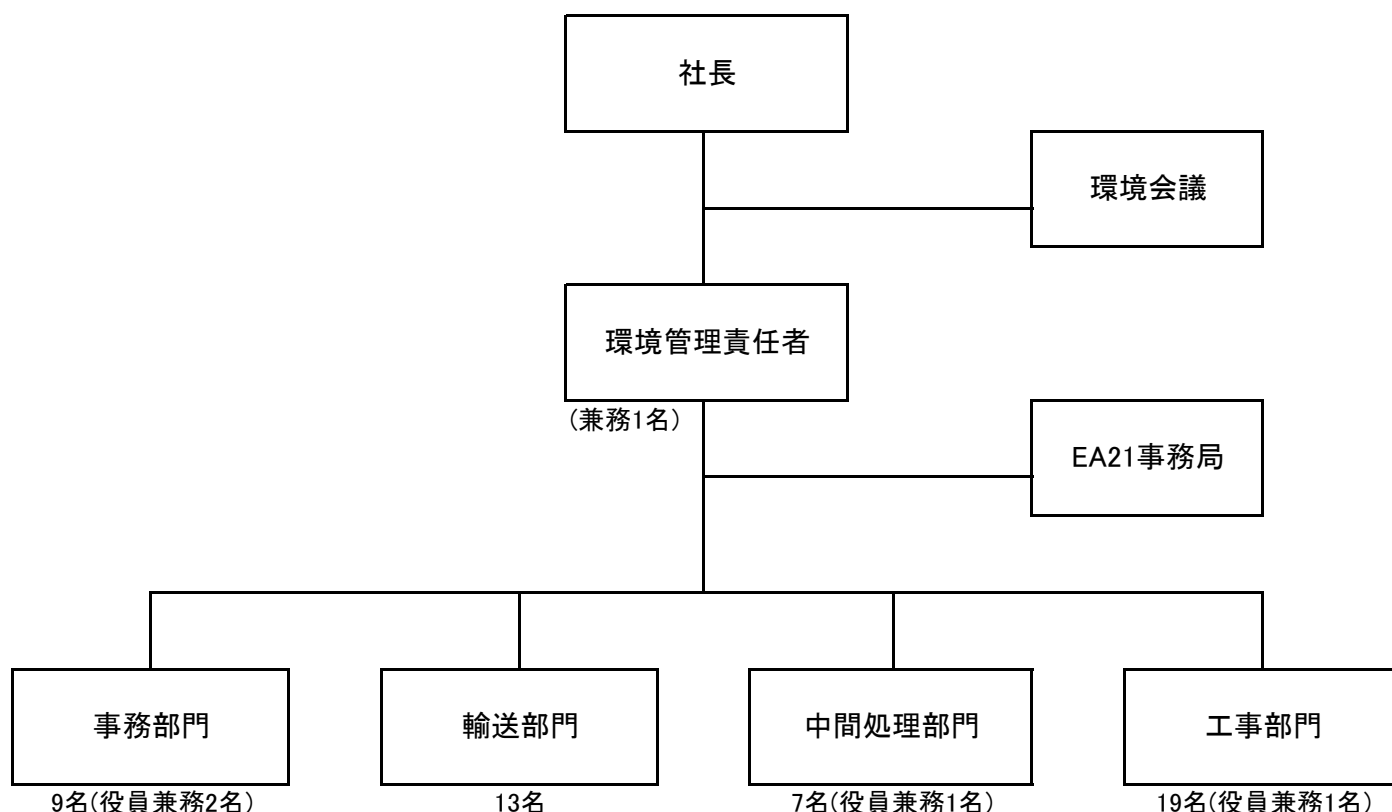
従業員数 : 48名

事業活動 : 木材破碎土木工事、木材チップのリサイクル事業、発酵堆肥化事業
産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物及び一般廃棄物処分業
建物の解体工事業、土木工事業、一般区域貨物自動車運送事業

ホームページ : <http://numatakigyou.co.jp/>

5、組織図

2024年10月1日 現在



総数 48名

5-1、 役割・責任

社長	経営資源を必要に応じて提供する。 環境管理責任者の任命 環境方針の制定、改訂、周知 環境経営マニュアル、会社規定、手順書の制定、見直しにおける承認 環境管理に関する諮問及び審議機関としての環境会議の設置と開催の指示 環境活動計画書、環境目標・活動計画／進捗管理表の承認 環境教育訓練計画／実施記録の承認 マネジメントレビューの実施 課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	環境関係法令等登録表／遵守評価記録の承認 環境経営マニュアルの作成 環境活動計画書、環境目標・活動計画／進捗管理表の作成 環境教育訓練計画／実施記録の作成 外部環境情報の窓口及び報告書の作成 遵法性評価の実施 是正処置、予防処置の指示・有効性の確認 マネジメントレビューのための情報提供、及び記録の作成
各部門責任者	環境目標・活動計画の実施 教育・訓練、緊急事態対応テストの実施 是正処置、予防処置の実施
環境会議	環境目標、活動計画などの協議・発案
EA21事務局	環境管理責任者の補佐、環境会議の事務方 定期的に開催し、環境目標達成・環境活動実施状況確認

6、許可の内容

a、一般廃棄物中間処分業許可

小美玉市：小美玉市環境指令第24号
処分地：小美玉市川戸114番地3 外3号 許可条件：剪定枝、刈草 許可の別：中間処分(破碎)
許可条件：廃棄物の処理及び清掃に関する法 許可期間：令和6年4月1日～令和8年3月31日
市長の指示に従うこと。
施設の概要：破碎施設 処理能力 196.96t/日(8時間)

b、産業廃棄物処分業許可

茨城県 許可番号 00821072308 優良認定
許可期間 令和6年2月28日～令和12年10月26日
事業の範囲 中間処分
① 破碎 木くず
② 発酵堆肥化 動植物性残さ(植物由来に限る。)

① 茨城県小美玉市川戸字葉柄峯1140番1 外3筆

施設の種類	処理能力	産業廃棄物の種類	設置年月日 許可年月日 許可番号
木くずの処理施設	196.96t/日 (8時間)	木くず 以上1種類	平成31年2月22日 平成31年1月7日 1-1-0268

② 茨城県小美玉市川戸字葉柄峯1143番2の一部

施設の種類	処理能力	産業廃棄物の種類	設置年月日 許可年月日 許可番号
発酵堆肥化施設	36.1t/日 (24時間)	動植物性残さ(植物由来に限る。) 以上1種類	平成28年6月30日 平成28年6月22日 1-1-0415

c-1、産業廃棄物収集運搬業許可その1

	茨城県	千葉県	埼玉県	栃木県
許可番号	第00501072308号	第01200072308号	第01100072308号	第00900072308号
優良認定	令和6年9月20日	令和3年10月31日	令和4年5月2日	令和4年3月16日
許可年月日	令和6年9月20日	令和3年10月31日	令和4年5月2日	令和4年3月16日
許可期限日	令和13年9月18日	令和10年10月31日	令和11年4月29日	令和11年3月15日
	積替保管を除く	積替・保管を除く	積替え保管を除く	積替えを除く
		特別管理産業廃棄物 であるものを除く		
廃棄物の種類				
汚泥	● *1			
廃プラスチック類	● *2	● *5	●	●
木くず	●	●	●	●
動植物性残さ	●	● *6	●	●
金属くず	● *3	● *5	●	●
ガラスくず・コンクリートくず・及び陶磁器くず	● *2	● *5	●	●
がれき類	● *4	●	●	●

*1 石綿含有産業廃棄物を除く、水銀使用製品産業廃棄物を除く、水銀含有ばいじん等を除く
*2 自動車等破碎物を除く、石綿含有産業廃棄物を除く、水銀使用製品産業廃棄物を除く
*3 自動車等破碎物を除く、水銀使用製品産業廃棄物を除く
*4 石綿含有産業廃棄物を除く
*5 自動車等破碎物を除く
*6 野菜くずに限る

c-2、産業廃棄物収集運搬業許可その2

	福島県	宮城県	神奈川県	東京都
許可番号	第00707072308号	第00400072308号	第01400072308号	第13-00-072308号
優良認定日	令和6年6月11日	令和6年9月5日	令和2年12月9日	平成30年9月11日
許可年月日	令和6年6月11日	令和6年9月5日	令和2年12月9日	平成30年9月11日
許可期限日	令和13年5月2日	令和13年6月4日	令和9年12月2日	令和7年9月10日
	積替え及び保管行為を 含まない	積替え又は保管行為を 除く	積替・保管を除く	積替え保管を除く
	これらのうち自動車等破砕物及 び特別管理産業廃棄物である ものを除く	これらのうち石綿含有産 業廃棄物を除く	特別管理産業廃棄物で あるものを除く	
廃棄物の種類				
廃プラスチック類	● *1	● *1	●	●
木くず	●	●	●	●
金属くず	● *2	● *2	●	●
ガラスくず・コンクリー トくず・及び陶磁器く ず	● *3	● *1	●	●
がれき類	● *4	● 45	●	●

*1 自動車等破砕物を除く、石綿含有産業廃棄物を除く、水銀使用製品産業廃棄物を除く

*2 自動車等破砕物を除く、水銀使用製品産業廃棄物を除く

*3 自動車等破砕物を除く、石綿含有産業廃棄物を除く、水銀使用製品産業廃棄物を除く、工作物の新築、改築又は除去に伴って生じた

*4 石綿含有産業廃棄物を除く

d、特定建設業の許可

許可番号 茨城県 水土木 第278号

許可年月日 令和4年5月30日

許可の有効期限 令和9年5月29日

建設業の種類 土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、水道施設工事業、解体工事業

7、施設等の状況

① 運搬車両

車両型式	最大積載量 (トンX台数)						
ダンプ	10.70t×1台	10.40t×1台	8.80t×1台	3.00t×1台	2.60t×1台	10.3t×1台	
トラクター	50.92t×1台	50.69t×1台	50.55t×1台	50.62t×1台	50.06t×1台	37.56t×1台	38.26t×1台
着脱装置付コンテナ専用車	10.40t×2台	10.30t×1台	5.70t×1台				
セミトレーラー	25.20t×1台	20.00t×1台	34.6t×1台	30.00t×2台	16.70t×1台		
ダンプセミトレーラー	20.20t×1台	20.00t×1台	17.70t×1台				
ユニック車	10.90t×1台	9.20t×1台	5.60t×1台	2.900t×1台			
トラック	3.40t×1台						
定員6人キャブオーバー	2t×5台						
定員3人キャブオーバー	2t×1台						
定員3人バン							
定員2人バン	350kg×3台						
定員2名軽トラック	350kg×1台						

② その他車両

名称	メーカー	台数
油圧ショベル PC-350	コマツ	5
油圧ショベル PC-350(2P)	コマツ	1
油圧ショベル PC-210	コマツ	4
油圧ショベル PC-138	コマツ	4
油圧ショベル PC-78	コマツ	1
油圧ショベル PC-30	コマツ	1
油圧ショベル SK-350ロング	コベルコ建機	2
油圧ショベル SK-235	コベルコ建機	7
油圧ショベル SK-210 ハイブリッド	コベルコ建機	1
油圧ショベル SK-55	コベルコ建機	1

名称	メーカー	台数
ホイローダー WA320	コマツ	4
ブルドーザー D61PX	コマツ	1
ブルドーザー D65PX	コマツ	1
ブルドーザー D39PX	コマツ	1
キャリアダンプ MST-2200VD	諸岡	2
自走式木質破砕機 HG6000TXII	Vermeer (US)	1
自走式木質破砕機 CRAMBO5000	Komptech (DE)	1
ドローン (マルチコプター)		

③ 特殊機器等

機器名称	保有 台数
荒破砕機 DW306 CERON	1台
水平回転式スクリーン	2台
スタースクリンデッキ	1台
二軸大型木破砕機	1台
ウッドシア	7台
フォークグラブ	7台

機器名称	保有 台数
レーキスケルトン	7台
ロータリーディスクカッター	3台
ハーベスター	1台
ギドラ	4台
ガメラ	1台
ヌマトロン	6台
ウッディ	1台
トロンメル	2台
ドローン(マルチコプター)	台

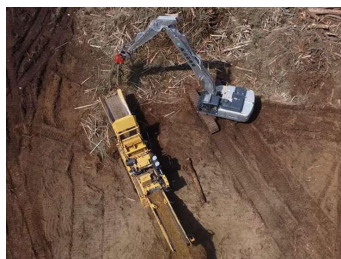
ウッディ



ドローン



自走式木材破砕機



二軸大型木質破砕機



ヌマトロン



一軸低回転破砕機(DW306)



水平回転式スクリーン



水平回転式スクリーン HG6000E II



野菜くず等破砕機



有価木くず破砕機



木材チップ保管施設



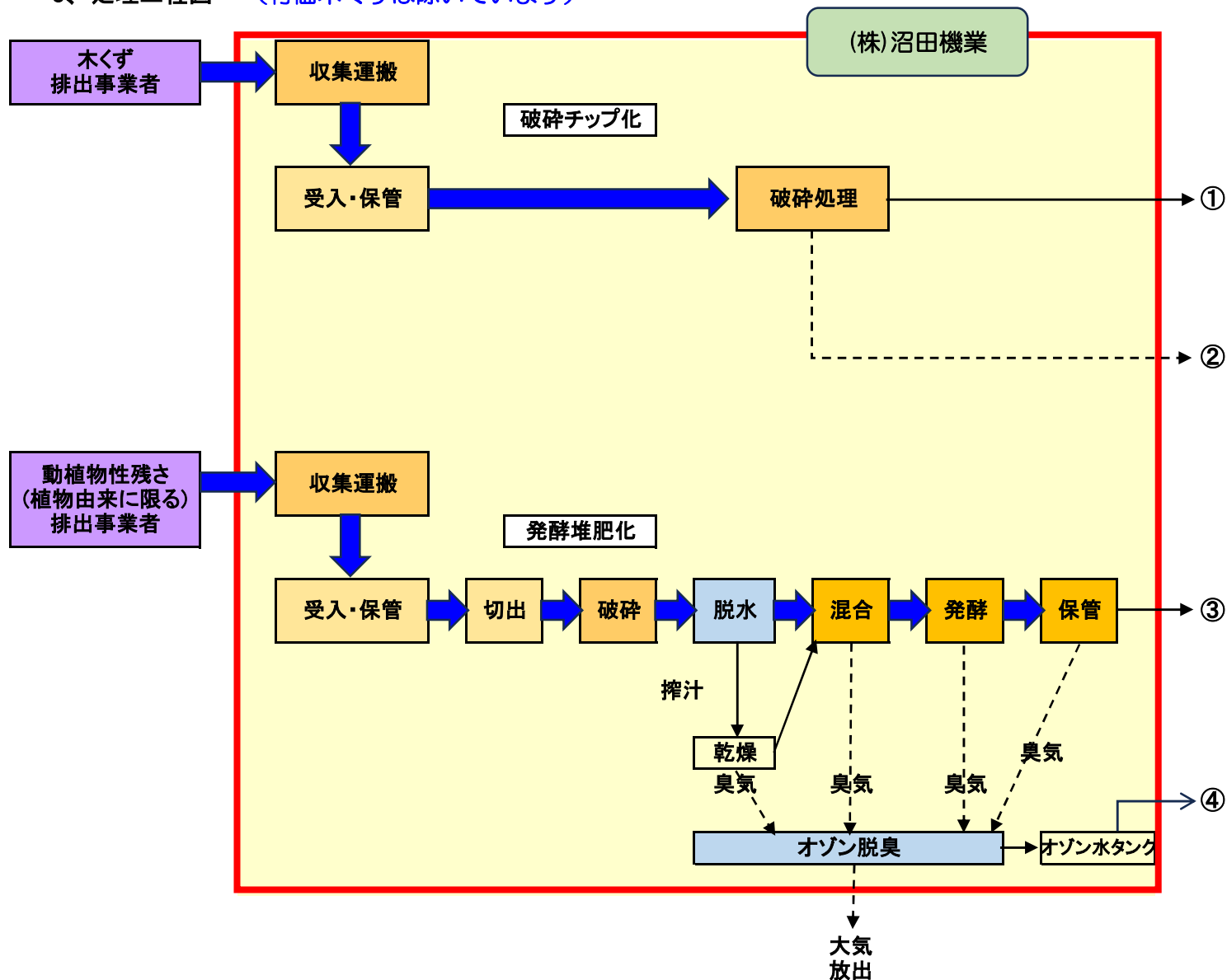
発酵ヤード



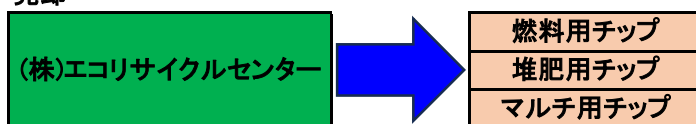
有価木くず保管場



8、処理工程図 (有価木くずは除いています)



→ ① 売却



→ ② 処分委託

(株)リサイクルパーク 混廃	破砕・選別・切断	骨材
新栄商事(株) コン・ガラ	破砕	再生碎石

→ ③ 売却



→ ④ 処分委託

処理水	脱水	堆肥原料
-----	----	------

9、事業規模と処理実績

年度 8月～9月

項目		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高		百万円	2,095	1,886	1,856	1,815	1,859	1,981
従業員数		人	38	40	40	44	43	43
敷地面積		m ²	32,129	32,129	32,129	32,129	32,129	32,129
本社		m ²	8,344	8,344	8,344	8,344	8,344	8,344
処理場 木材チップ施設		m ²	5,266	5,266	5,266	5,266	5,266	5,266
堆肥化施設		m ²	9,014	901	9,014	9,014	9,014	9,014
有価木くず破砕施設		m ²	9,505	9,505	9,505	9,505	9,505	9,505
一般廃棄物受入量(剪定枝・枯草)		トン	1,095	1,167	1,218	1,994	2,685	4,870
産業廃棄物 収集運搬量	木くず	トン	46,197	37,892	28,027	35,033	33,132	34,725
	動植物性残さ	トン	472	291	413	361	566	435
産業廃棄物 処理量	木くず	トン	59,338	56,007	45,450	54,942	49,372	55,099
	動植物性残さ	トン	12,915	11,704	9,843	12,381	10,226	11,545
有価木くず	収集運搬量	トン	7,480	9,630	9,843	12,381	12,381	10,671
	処理量	トン	7,480	9,630	10,681	13,417	15,047	13,543
木材破砕土木工事		件	280	219	219	219	219	356
電気使用量		kWh	1,442,071	1,766,071	1,551,391	1,582,184	1,513,858	1,427,934
軽油使用量		kℓ	1,048	844	830	885	820	919
ガソリン使用量		kℓ	13,627	8,570	9,496	5,353	8,279	6,582
LPG使用量		m ³	194.7	274.0	205.6	238.1	9.3	9.4
二酸化炭素排出量		t-CO ₂	3,449	3,051	2,882	3,027	2,834	3,045
太陽光発電量								328,218

※二酸化炭素排出量の電力排出量は、東京電力エナジーパートナー(株)2017年度実績0.462kg-CO₂/kWhを使用。

※太陽光発電システムは、2023年11月より稼働、発電開始。

10、廃棄物処理料金

個別見積による(処理見積は無料)。

11、事業内容

① 伐採・伐開 (LOGGING)

それぞれの作業に最適な大型建設機械を活用し、蓄積した技術とノウハウをいかして安全かつ正確な作業を行います。

A 伐採・伐開作業



伐採

バックホウによって伐倒方向をコントロールし、安全・確実に作業します。



集積

フォークグラブで伐倒木を同じ方向に集積。造材効率アップにつながります。



造材

ハーベスタを駆使し、造材作業を効率化。作業の安全性も確保します。



伐根

伐根しながら集積して運搬効率、破砕処理の作業効率の向上につなげます。

B 小割・草刈り・除根・除土作業



小割

巨大な口のようなウッドシャで枝・幹・抜根を切断する小割を行い、運搬効率を上げます。



草・篠・竹伐採

手刈りができない密集した篠、竹などを機械により刈り込みます。作業時間の短縮とコストダウンを実現します。



除根

特殊レーキで刈払い・除根・除土という3工程を1回で行うため、作業効率が向上し20～30%のコストダウンを実現します。



除土

ヌマトロン（回転式ふるい機）などによって、より細かな除根・除土を行い、残材を除去。土木工事をしやすくします。

C 現場破碎作業



破碎

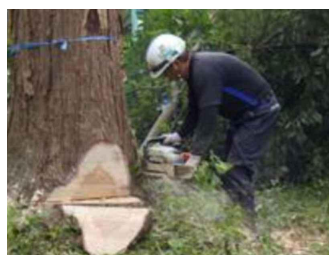
HG6000TX II（水平グライダー）高速回転破碎機によって枝葉・幹を破碎



破碎

CR-5000（二軸木質破碎机）は枝葉・幹・根（土付着物）までチップ化します。

D チェーンソー・除草作業



チェーンソー作業

安全教育を受講したチェーンソー作業者がガイドラインに従って伐木します。



人力による除草

人力で下刈りを行います。特別教育を受けた外国人技能実習生が草刈などの作業に従事し



機械による除草

大規模な除草エリアなどを機械により除草。作業時間の短縮とコストダウンを実現します。



② 輸送(TRANSPORT)

大型特殊機械の回送業務、現場発生材の自社処分場への運搬業務、お取引先からの委託回送業務、建機レンタル会社様からの委託運送を主に行っています。



③ 中間処理(INTERMEDIATE TREATMENT)

自社の中間処理施設や切削チップ製造施設で木くずや建設廃棄物をチップ化し、リサイクルに貢献しています。

A 一般廃棄物中間処理/産業廃棄物中間処理（木くず破碎）

木くずと野菜くずをチップ化し、発酵堆肥をつくっています。



工事等から発生した



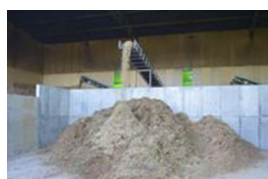
受付後、軽量を行い



処理場内にて指定場



タプグラインダーに



選別機を通してゴミ
などを除去しながら
チップ化



チップを堆積して発
酵させ、堆肥化

B 発酵堆肥化中間処理（野菜くず）

粒度が大きい切削チップをバイオマス発電所に供給しています。



受付後、軽量を行い処理場に搬入



処理場内の指定場所の荷下ろし



野菜ホッパーに投入後、破砕機で細



細かくしたものを搾り機にかけて脱



搾汁・堆肥汚水をタンクに集め、浄化し脱臭工程にオゾン水として使用



木チップと野菜チップを混ぜ合わせ発酵を促進



1次発酵を15日周期にて、攪拌を繰り返します(3工程)
2次発酵を30日周期にて攪拌を繰り返します(2工程)



品質管理をしながら熟成させた後、出荷します。

※ オゾンによる脱臭工程

オゾンの分子式は、 O_3 、つまり酸素(O_2)を原料にして作られます。オゾンは極めて不安定で反応性が高いため、何かと反応しても元の酸素に戻ろうとします。その時、雑菌や臭い物質と反応するので、殺菌・脱臭ができるのです。

また、空気中の酸素が原料なので、いつでもどこでも安価に生成でき、反応後は酸素に戻るため、残留性がないという優れた特長を持っています。オゾン水による脱臭は、悪臭の素をオゾンで分解するため、より高い効果が得られます。

C 切削チップ製造

廃材はバイオマス発電の燃料となります。

効率よく燃焼させるために切削チップにしてバイオマス発電所に供給します。



現場にて積込みを行い当施設へ運搬します。



受付後、計量を行い、製造工場に搬入します。



場内の指定場所に荷下ろししていただきます。



切削ホッパーに投入後、切削機で細かくします。



ストックヤードより積込みを行い出荷します。

環境経営方針

(株)沼田機業は、茨城県の空の玄関である茨城空港近くに事業所を構え、地理的な利便性と効果的な土木技術を活かした木材資源のリサイクル事業及び食品残さのリサイクル事業を通して、地域環境整備に努めています。

今後も課題とチャンスを踏まえ、下記の行動指針に則り、全社員一丸となって、持続可能な循環型社会形成の一翼を担っていきます。

行動指針

1. 環境関連の法規制及び業界・地域の要求事項を遵守し環境保全に 努めます。
2. 事業活動の中で次のテーマに取組み、環境負荷の低減で二酸化炭素排出量削減に継続的に 努めます。
 - (1) 収集運搬車両、営業車、重機のエコドライブ及び効率の良い配車による燃費向上
 - (2) 事務所及び中間処理場の無駄撲滅による電気の効率的な使用
 - (3) 事業所から発生する廃棄物の削減
 - (4) 水の無駄使い禁止
 - (5) 化学物質の適正管理、製品及びサービスへの環境配慮等の取組
3. 当社の環境方針は、社内に掲示し、すべての従業員に周知します。

又、環境活動については、環境活動レポートで公開します。

制定 平成25年4月1日

改定 令和6年10月10日

株式会社 沼田機業
代表取締役
沼田 直

13、環境経営目標と計画

1) 2023年度環境経営目標

2022年度の実績を基準に2023年度以降及び2024年度、2025年度の暫定目標を策定して取組ました。

環境項目	部門	単位	2022年度 実績基準値	2023年度 目標値	2024年度 暫定目標値	2025年度 暫定目標値
売上高	全社	百万円	1,859	1,859	1,878	1,896
産業廃棄物 収集運搬量	木くず 野菜くず	トン	35,033	35,033	35,383	35,737
有価木くず収集運搬量			361	361	365	368
産業廃棄物処理量	木くず 野菜くず		12,381	12,381	12,505	12,630
有価木くず処理量		トン	54,942	54,942	55,491	56,046
一般廃棄物(木くず)処分量			8,775	8,775	8,863	8,951
建設リサイクル率	工事部門	%	13,417	13,417	13,551	13,687
			2,685	2,685	2,712	2,739
電気使用量	本社	kWh	7,252	7,252	自社発電	
	木くず+野菜くず※1		1,422,472	1,422,472		
	原単位 ※2	kWh/トン	22.32	22.32		
	有価木くず	kWh	84,134	84,134		
	原単位 ※2	kWh/トン	6.27	6.27		
軽油使用量	運搬車両+重機	ℓ	820,010	820,010	828,210	836,492
	原単位 ※3	ℓ/トン	6.43	6.43	6.43	6.43
	運搬車両燃費	km/ℓ	2.50	2.50	2.53	2.55
ガソリン使用量	営業車	ℓ	8,279	8,279	8,362	8,445
	原単位	ℓ/百万円	4.45	4.45	4.45	4.45
LPガス使用量	本社+処理場	m³	9.00	9.00	9.00	9.00
二酸化炭素排 出量の削減	排出量	t-CO2	2,834	2,138	2,156	2,178
	原単位	t-CO2/トン	22.21	16.76	16.73	16.73
自社廃棄物の削減	全社	kg	301	301	301	301
	本社	kg	82	82	82	82
	処理場	kg	219	219	219	219
水道水使用量の削減	全社	m³	324	324	324	324
	本社	m³	40	40	40	40
	処理場	m³	284	284	284	284
地下水の使用量の削減	全社	m³	14,745	14,745	14,450	14,161
	本社	m³	4,208	4,208	4,124	4,041
	処理場	m³	10,537	10,537	10,326	10,120
グリーン購入	全社	実施	チェックシート管理	削減	削除	削除
PRTR物質の使用有無確認	全社	適正管理		適正管理		
環境配慮	全社	—		クレーム・苦情件数ゼロを維持		
EA21と優良認定の維持	全社	—		維持改善		

二酸化炭素排出量の電気排出係数は東京電力のH29年度調整後排出係数 0.462kg-CO2/kWhを使用

※1 2024年1月31日に是正処置を行い目標値を立案(2022年度実績値を目標値とした。)

また、2024年度以降については新たに策定を行う。

※2 ※1で計画した値に対して原単位を計算。「電気使用量÷(収集運搬量 + 処理量 + 一般廃棄物処理量)」

※3 2024年2月22日に是正処置を行い目標値修正した値を記載。

2) 環境活動計画

2021年度～2023年度中期環境活動計画

取組テーマ	部門	主な活動内容
電気使用量の削減	全社	① 節電指導 ② 処理機器の定期点検・整備 ③ 照明器具の省エネ化 ④ 省エネ診断の実施
軽油使用量の削減	運搬部門 工事部門 処理場	① アイドリングストップ・エコドライブ ② 燃費データ把握 ③ 車両整備徹底 ④ 施設内の整理整頓
ガソリン使用量の削減	全社	① アイドリングストップ ② エコドライブ教育 ③ 車両整備の徹底
二酸化炭素排出量の削減	全社	① エネルギー各項目目標達成 ② 省エネ教育の実施 ③ 省エネパトロール実施
自社廃棄物の削減	本社 処理場	① ペーパーレス ② 裏紙再利用 ③ 分別の徹底
水道水使用の削減	本社	① 配管の漏洩点検
地下水使用量の削減	本社 処理場	① 配管の漏洩点検 ② 洗車水、散水の節約
グリーン購入	全社	① 環境配慮製品の選定・購入
PRTR物質管理		① PRTR物質の使用有無確認
製品サービス環境配慮		① 事業に係るクレーム・苦情ゼロ

上記環境経営計画の基に活動を行い、環境経営目標を推進してきました。

14、環境目標の実績と評価

1) 2023年度環境経営目標への取組結果

◎は110%以上達成、○は100%～109%達成、△は95～99%達成、×は94%以下

環境項目	部門	単位	2023年度 目標値	2023年度 実績	達成率	評価
売上高	全社	百万円	1,859	1,981	106.56%	○
産業廃棄物 木くず	運搬部門	トン	35,033	34,725	99.12%	△
収集運搬量 野菜くず			361	435	120.50%	◎
有価木くず収集運搬量			12,381	10,671	86.19%	X
産業廃棄物処理量 木くず	処理場	トン	54,942	55,099	100.29%	○
野菜くず			8,775	11,545	131.57%	◎
有価木くず処理量			13,417	13,543	100.94%	○
一般廃棄物(木くず)処分量			2,685	4,870	181.38%	◎
建設リサイクル率	工事部門	%	95.00%	99.72%	104.97%	◎
電気使用量	本社	kWh	7,252	9,394	77.20%	X
	木くず+野菜くず ※1		1,422,472	1,414,329	100.58%	○
	原単位 ※2	kWh/トン	17.82	16.63	107.18%	○
	有価木くず	kWh		処理場へ組込み		—
	原単位 ※2	kWh/トン				—
	現場事務所	kWh	実測	4,211		—
軽油使用量	運搬車両+重機	ℓ	820,010	918,989	89.23%	X
	原単位 ※3	ℓ/トン	6.43	7.02	91.53%	X
	運搬車両燃費	km/ℓ	2.50	2.63	95.06%	△
ガソリン使用量	営業車	ℓ	8,279	6,582	125.77%	◎
	原単位	ℓ/百万円	4.45	3.32	134.03%	◎
LPガス使用量	本社+処理場	m ³	9.00	9.40	95.74%	△
二酸化炭素排出量の削減	排出量 ※4	t-CO ₂	2,795	3,046	91.77%	X
	原単位	t-CO ₂ /トン	21.91	23.27	94.14%	X
自社廃棄物の削減	全社	kg	301	301	100.00%	○
	本社	kg	82	83	98.80%	△
	処理場	kg	219	218	100.46%	○
水道水使用量の削減	全社	m ³	284	223	127.35%	◎
	本社	m ³	244	190	128.42%	◎
	処理場	m ³	40	33	121.21%	◎
地下水の使用量の削減	全社	m ³	14,745	6,451	228.56%	◎
	本社	m ³	4,208	5,763	73.01%	X
	処理場	m ³	10,537	688	1531.54%	◎
グリーン購入	全社	実施	実施	実施		○
PRTR物質の使用有無確認	全社	適正管理	適正管理			○
環境配慮(クレーム・苦情件数ゼロを維持)	全社	—	ゼロ	ゼロ		○
EA21と優良認定の維持	全社	—	維持改善			○

二酸化炭素排出量の電気排出係数は東京電力のH29年度調整後排出係数 0.462kg-CO₂/kWhを使用

※1 2024年1月31日に是正処置を行い目標値を立案(2022年度実績値を目標値とした。)

※2 ※1で計画した値に対して原単位を計算。「電気使用量÷(収集運搬量 + 処理量 + 一般廃棄物処理量)」

※3 2024年2月22日に是正処置を行い目標値修正した値を記載。

※4 CO₂総排出量には、現場事務所の電力使用量も含まれています。(4,211 kWh/年)

2) 2023年度環境経営計画への取組結果と評価

評価点数と活動状況

5 大変良く活動し成果があった

4 良く活動し実績も上がった

3 取り組みが認められた

2 取り組みが不足

1 取り組みなし

取組テーマ	部門	主な活動内容	評価
電気使用量の削減	全社	① 節電指導 ② 処理機器の定期点検・整備 ③ 照明器具の省エネ化 ④ 省エネ診断の実施	4
軽油使用量の削減	運搬部門 工事部門 処理場	① アイドリングストップ・エコドライブ ② 燃費データ把握 ③ 車両整備徹底 ④ 施設内の整理整頓	3
ガソリン使用量の削減	全社	① アイドリングストップ ② エコドライブ教育 ③ 車両整備の徹底	5
二酸化炭素排出量の削減	全社	① エネルギー各項目目標達成 ② 省エネ教育の実施 ③ 省エネパトロール実施	5
自社廃棄物の削減	本社 処理場	① ペーパーレス ② 裏紙再利用 ③ 分別の徹底	4
水道水使用の削減	本社	① 配管の漏洩点検	5
地下水使用量の削減	本社 処理場	① 配管の漏洩点検 ② 洗車水、散水の節約	4
グリーン購入	全社	① 環境配慮製品の選定・購入	5
PRTR物質管理		① PRTR物質の使用有無確認	5
製品サービス環境配慮		① 事業に係るクレーム・苦情ゼロ	5

15、環境活動取組結果とその評価、今後の取組

1) 2023年度活動結果

売上高は、目標値の106%を達成し、新型コロナウイルス感染症前の売上高に戻りつつある。

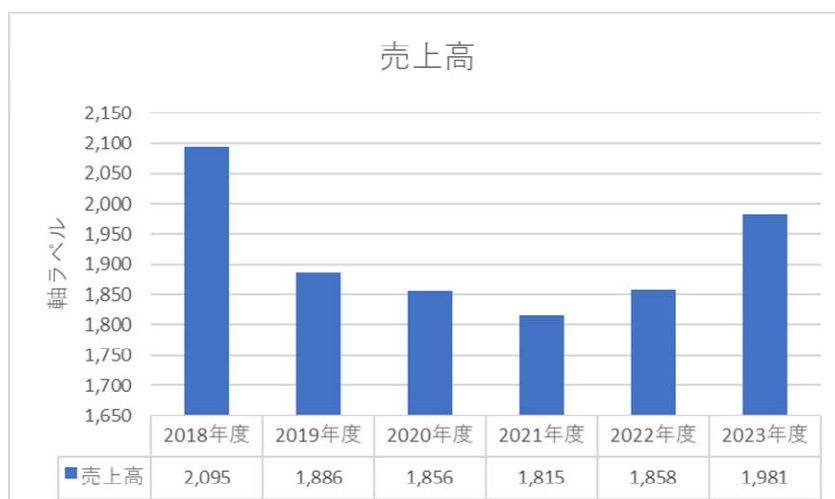




図1 木くずの収集運搬量は、昨年を上回り、処理量はCOVID-19蔓延前に迫る数量を達成した。



図2 有価木くずの収集運搬量は、昨年より減少したが、処理量は、右肩上がりで進捗している。



図3 野菜くずの収集運搬量は昨年より減少したが、処理量がCOVID-19蔓延前に迫り回復している。



図4 二酸化炭素排出要因は、電気使用量、軽油使用量、ガソリン使用量、LPG使用量にの構成順である。

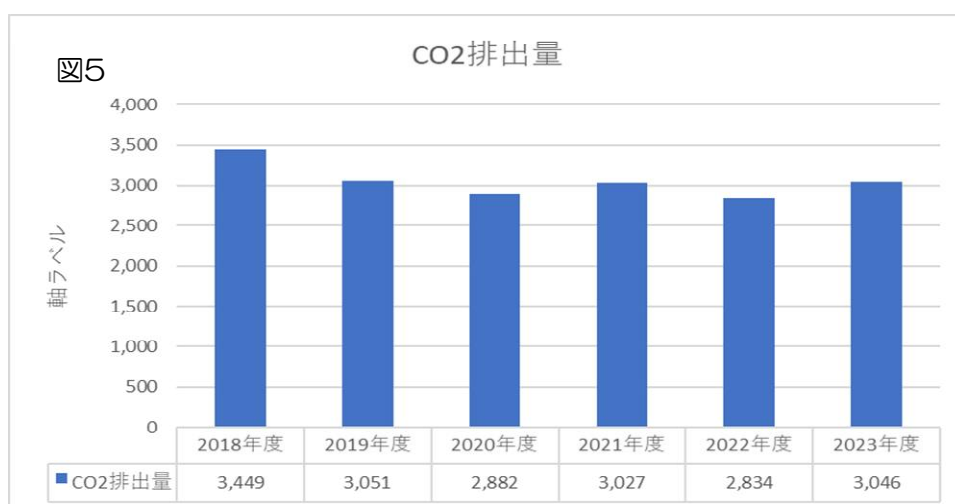


図5 また、2023年度(2023年11月から)太陽光発電システムが稼働しているが、各処理量の増加及び現場事務所の電力使用量のプラス、処理場での太陽光では賅えていない電力使用量が増加しているため、CO2排出量は、COVID-19蔓延以前の値に迫りつつある。



図6 原単位については、収集運搬量が多少減少しているため軽油原単位は昨年より上昇、処理量が増加している関係で電気原単位は昨年より減少している。

2) 次年度以降の目標値

2024年度以降の環境経営目標は、2013年度～2023年度の実績を平均値の標準偏差を基に基準値の設定を行い、また、太陽光発電システムでは賄えなかった、処理場の電気使用量及び工事現場では定額使用ではあるが電力使用量も付加して策定を行います。

環境項目		部門	単位	基準値	2024年度 目標値	2025年度 目標値	2026年度 目標値
売上高		全社	百万円	1,984	1,994	2,004	2,014
産業廃棄物 収集運搬量	木くず	運搬部門	トン	37,688	37,688	37,688	37,688
	野菜くず			423	423	423	423
有価木くず収集運搬量					10,689	10,689	10,689
産業廃棄物処理量	木くず	処理場	トン	52,695	52,595	52,595	52,595
	野菜くず			10,764	10,764	10,764	10,764
有価木くず処理量				11,351	11,351	11,351	11,351
一般廃棄物(木くず)処分量				3,125	3,125	3,125	3,125
建設リサイクル率		工事部門	%	95.00%	95.00%	95.00%	95.00%
電気使用量	本社	本社	kWh	10,465	10,360	10,257	10,154
	現場事務所	工事部門		4,211	4,211	4,211	4,211
	処理場	処理場		1,531,458	1,516,143	1,500,982	1,485,972
	原単位		kWh/トン	23.00	22.80	22.58	22.35
軽油使用量	運搬車両+重機	運搬部門 工事部門 処理場	ℓ	831,368	823,054	814,824	806,676
	原単位		ℓ/トン	6.56	6.50	6.43	6.37
	運搬車両燃費		km/ℓ	2.58	2.58	2.58	2.58
ガソリン使用量	営業車	全社	ℓ	7,673	7,751	7,673	7,596
	原単位		ℓ/百万円	3.87	3.89	3.83	3.77
LPガス使用量	本社+処理場		m³	412.00	407.88	403.80	399.76
二酸化炭素排 出量の削減	排出量		t-CO2	2,847,668	2,819,568	2,791,391	2,763,496
	原単位		t-CO2/トン	22,469.47	22,265.31	22,042.81	21,822.53
自社廃棄物の削減			全社	kg	463	458	454
		本社	kg	198	196	194	192
		処理場	kg	265	262	260	257
水道水使用量の削減		全社	m³	323	320	317	313
		本社	m³	284	281	278	276
		処理場	m³	39	39	38	38
地下水の使用量の削減		全社	m³	12,863	12,734	12,607	12,481
		本社	m³	6,833	6,765	6,697	6,630
		処理場	m³	6,030	5,970	5,910	5,851
PRTR物質の使用有無確認		全社	適正管理	適正管理	適正管理		
環境配慮		全社	件	ゼロ件	クレーム・苦情件数ゼロを維持		
EA21と優良認定の維持		全社	—	維持改善	維持改善		

※ 電力量の排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株) 令和2年度調整後メニューG(残渣) 0.443kg-CO₂を使用

3) 2024年度以降中期環境経営計画の見直しについて。

2023年度の目標設定時に2024～2025年度を暫定目標としていた経緯と電力使用量、特に処理場を全て太陽光発電システムに置換えて策定したが、是正措置において処理場の電力使用量を追加したので、2024年度以降中期環境経営目標を処理場の電力使用量を含め新たに策定を下記の通り行う。
また、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日5類感染症への移行に伴い。経済活動が活発化する事が予想されるので、下記の通りに基準値の設定を行う。

- ① 基準値の設定を過去11年間(2013年度～2024年度)の平均値のばらつきを考慮して、標準偏差分(1σ又は2σ)を加味若しくは平均値を基準値とした。
- ② 売上高は、回復傾向ではあるが、諸般の事情を考慮し2024年度は基準値プラス0.5%、2025年度以降は前年目標値プラス0.5%とします。
- ③ 収集運搬及び処分量の2024年度は基準値のプラス1%、2025年度以降は前年目標値のプラス1%とします。
- ④ 各削減量は2024年度は基準値のマイナス1%、2025年度以降は前年目標値のマイナス1%とします。
- ⑤ 工事現場の電気使用量については、固定契約ではあるが、使用数量も把握できるため管理を実施。
- ⑥ 処理場では、太陽光発電システム他別途、東京電力エナジーパートナー(株)を使用しているため管理を実施。
※2023年度も管理は実施している。
- ⑦ グリーン購入を削除。

4) 環境活動計画

2024年度～2026年度中期環境活動計画は、下記にとおりとする。

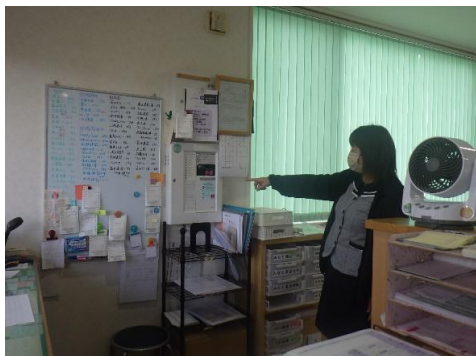
取組テーマ	部門	主な活動内容
電気使用量の削減	全社	① 節電指導 ② 処理機器の定期点検・整備 ③ 照明器具の省エネ化 ④ 不要、不在時の電源OFFの徹底
軽油使用量の削減	運搬部門 工事部門 処理場	① アイドリングストップ・エコドライブ ② 燃費データ把握 ③ 車両整備徹底 ④ 施設内の整理整頓
ガソリン使用量の削減	全社	① アイドリングストップ ② エコドライブ教育 ③ 車両整備の徹底
二酸化炭素排出量の削減	全社	① エネルギー各項目目標達成 ② 省エネ教育の実施 ③ 省エネパトロール実施
自社廃棄物の削減	本社 処理場	① ペーパーレス ② 裏紙再利用(社内資料等) ③ 分別の徹底(リサイクル推進)
水道水使用の削減	本社	① 配管の漏水点検 ② 節水(蛇口等のパッキン等の交換)
地下水使用量の削減	本社 処理場	① 配管の漏水点検 ② 洗車水、散水の節約 ③ 不要時の止水徹底
PRTR物質管理	全社	① PRTR物質の使用有無確認
製品サービス環境配慮		① 事業に係るクレーム・苦情ゼロ

5) 環境教育の実施状況

① 緊急時対応訓練実施

エコリサイクルセンター内での火災発生を想定して訓練の実施
滞りなく「火災発生緊急事態対応手順書」通り実施できた。

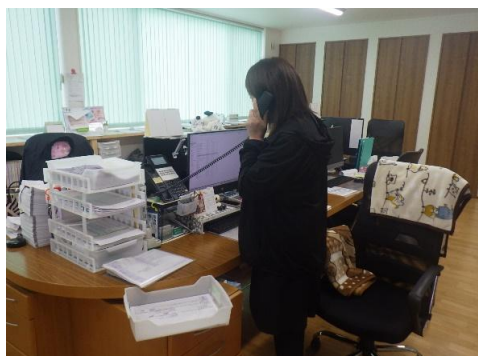
火災報知器が火災を検知



現場にて火災発生場所を特定、確認



火災発せによる、消防、本社、工場長へ連絡 鎮火報告を本社、工場長へ連絡



初期消火活動を行う



火災の鎮火を確認



火災訓練参加者一同



6) SDGs宣言書

2024年8月8日にSDGs宣言をいたしました。

エコアクション21を通して、宣言した「9個の関連ゴール」の達成に向けて、環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画を推進していきます。

SDGs宣言書

当社は不要な樹木の伐採から搬出、中間処理、木材資源のリサイクルまで一貫したサービスの提供により、お客様の様々なニーズにお応えしております。今般、国連が定めた「持続可能な開発目標 SDGs」の趣旨に賛同し、当社の事業を通じて持続可能な社会の実現を目指して、下記の取り組みを実施していくことを宣言します。

宣言日

2024年8月8日

宣言者

株式会社 沼田機業
代表取締役 沼田 直

重点的な取組テーマ	取組内容	関連するゴール
循環型社会への貢献	- ECOアクション21認証の継続取得、省エネ・節水・リサイクルを推進し環境保全に貢献します。 - 伐採・搬出・中間処理を通した木くずの再資源化により100%の循環型社会を目指します。 - 自家消費型太陽光発電による再生可能エネルギーの利用促進を図ります。	9 産業と資源効率の改善につとめ、持続可能な消費と生産を実現する 12 持続可能な消費と生産 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさを保ち増進する
社会から信頼される事業運営	- 法令や社会ルール、モラルの遵守などコンプライアンス意識の醸成に努めます。 - 環境や社会貢献についての取り組みを積極的に発信し、社会から信頼される事業運営を行います。	16 平和と公正な社会を築く 17 パートナーシップで目標を達成しよう
ダイバーシティ & インクルージョン	- あらゆる差別・ハラスメントを禁止し、基本的人権の尊重に努めます。 - 柔軟な勤務形態の整備、労務管理、資格取得サポート、健康経営に取り組みワークライフバランスを実現します。	3 持続可能な成長を促進する 4 質の高い教育をみんなに 8 働きがい、経済成長、公平な社会 10 人や国の不平等をなくす



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

16、環境関連法規等の遵守状況及び評価、違反訴訟など有無

1) 当社に適用される主な環境関連法令

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ● 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | ● 自動車NOx・PM法 |
| ● 大気汚染防止法 | ● 道路交通法 |
| ● 水質汚濁防止法 | ● 貨物自動車運送事業法 |
| ● 浄化槽法 | ● 道路運送車両法 |
| ● 騒音規制法 | ● オフロード法 |
| ● 振動規制法 | ● 建設業法 |
| ● 悪臭防止法 | ● 計量法 |
| ● フロン排出抑制法 | ● 森林法 |
| ● 労働安全衛生法 | ● 肥料取締法 |
| ● 消防法 | ● 茨城県廃棄物の処理の適正化に関する条例 |
| ● 高圧ガス保安法 | ● 小美玉市環境基本条例 |
| ● 建設リサイクル法 | ● 小美玉市廃棄物の減量及び処理に関する条例 |

2) 環境関連訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況は、2024年9月11日に評価したところ、法規制等の違反はありませんでした。
また、近隣、作業現場からの苦情ありませんでした。
関係当局からも過去3年間にわたって違反の指摘や訴訟は有りませんでした。

17、代表者による全体評価と見直し結果

2023年度は、設置した太陽光発電にて処理場施設を賄う予定で稼働を開始をしました。
しかしながら、電力使用量は処分場の処分量増加(特に野菜くず)に伴い、当初予定より増加したため太陽光発電量では賄えず売電分も使用する事になった。また、電気使用量は太陽光発電量を含め昨年度より僅かではあるが減少はしている。(太陽光発電は実質9ヶ月間稼働実績)
但し、今回は現場事務所の電気使用量(契約金額による使用量固定)がプラスされているため、全体の使用量は増加している。(二酸化炭素総排出量に影響)
その結果を基に2024年度以降はそれを踏まえて電力使用量の目標値を策定し取り組む。
水資源の使用量削減は、水道水及び地下水とも節水効果が行き届き目標を大きくクリアすることができた。
二酸化炭素排出に係る、ガソリン使用量、LPG使用量は、目標値をクリアできたが、軽油使用量は収運量特に野菜くずの収集運搬量をクリアしたため、増加した。
その収集運搬量は、全体(木くず、野菜くず、有価木くず)では未達成ではあったが、野菜くずの収集運搬量が大きく目標値をクリアした。
尚、処理量は全体(木くず、野菜くず、有価木くず)は目標値を達成している。
自社廃棄物の廃棄に置いても、処理場から排出される

2024年度から2026年度までの中期経営目標値は、2013年度～2023年度の過去11年の実績値の平均値を基準に標準偏差を求め各項目事に基準値を算出し中期経営計画を立案します。

環境経営方針は、2-(5)より「グリーン購入」につて記載を削除し、環境経営目標からも削除します。
環境活動計画からも「グリーン購入」を削除します。

環境経営計画も環境経営目標を推進するうえで若干追加変更を行う。